ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議　広報紙　第５４号　２０２２年１１月

目次

- 「ヒロシマ平和の灯のつどい（報告）　・・・1～3
- 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン（報告）　・・・3～4
- 広島市女性団体連絡会議 2022 年度役員・ひろしま WENET からのお知らせ　・・・・・4

「ヒロシマ平和の灯のつどい」（報告）

2022 年 7 月 31 日

今年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、まだ終わらず、プーチン大統領が核使用も示唆するような状況の中、広島は被爆 77 年目を迎えました。原爆や核被害により死没された人びとの鎮魂と核廃絶を願い、世界へアピールする「第 24 回ヒロシマ平和の灯のつどい」を開催しました。

第一部は、8 歳の時に牛田で被爆された小倉桂子さんのお話を広島平和記念資料館地下 1 階メモリアルホールでお聞きしました。「平和を求める活動において女性はとても力強い存在」と語り始めた小倉さん。42 歳の時から世界の人びとに英語でヒロシマを伝える活動を始められ、水を求める瀕死の方たちに幼いなりに精一杯対応しようとしたが大きな悔いが残ったこと、毎日近所の公園で犠牲者を荼毘に付していたお父様の様子など、「次世代と描く原爆の絵」※をスクリーンに映しながら、核兵器廃絶への強い思いを語られました。参加者は小倉さんのお話に引き込まれじっと聞き入っていました。

第二部は平和記念公園の原爆死没者慰霊碑前に場所を移し、来賓の広島平和文化センター荒瀬尚美常務理事のご挨拶の後、広島県から選ばれた第 25 代高校生平和大使の西川繭可さん、荒川彩良さん、岡本依純さんの三名と、核兵器廃絶と平和な世界の実現をめざす「高校生 1 万人署名活動」のメンバー西川歩花さんが、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」から採火を行いました。「私たちは被爆された方から直接お話を伺える最後の世代とも言われています」と核兵器廃絶への強い意志と継承の決意表明がなされました。

平和の灯は、カザフスタン被曝者への鎮魂歌「ザマナイ」の曲が流れる中、参加された皆さんが手に持つろうそくへと分灯されていきます。慰霊碑を訪れていた国内外からの方にも多く参加頂きました。コロナ対策のため、「原爆を許すまじ」「青い空は」の合唱はできませんでしたが、梶川純司さんによる篠笛の澄み切った音色が辺りを優しく慰めるように響き渡りました。続いて、網本えり子さんによる詩の朗読があり、参加者の平和への気

持ちを再確認するひとときを持ちました。

参加者はろうそくを手に原爆死没者慰霊碑を中心に東西二手に分かれてゆっくりと行進します。被爆証言者の小倉桂子さんと高校生平和大使が穏やかに言葉を交わしています。吹いていた風がいっとき、原爆犠牲者の霊を慰めるかのように静かになりました。

今年、初めての核兵器禁止条約締約国会議がウィーンで開催され、核廃絶に向け具体的なとりくみをまとめた「ウィーン行動計画」が採択されたものの、日本の参加はありませんでした。「手にしたろうそくの灯を消さぬよう慎重に、しかし確実に歩みを進めなければ…」と、核廃絶と平和を希求する自分たちの姿を重ね、思いをあらたにしました。

開催にあたり、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため万全の対策をして臨みました。たくさんの方々のお力添えをいただきこの集いを持てたことに心より感謝申し上げます。（書記：門田よしこ）

※「次世代と描く原爆の絵」：広島平和記念資料館では、被爆体験証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生ら若者が聞き取って絵に描き当時の状況を伝える事業に 2004 年度（平成 16 年度）よりとりくんでいる。

被爆者の証言を聞く会

被爆体験証言　　小倉桂子さん

「８歳のとき広島市東区牛田で被爆した私は、この世の地獄を目の当たりにしました。一番つらかったのは毎日毎日人が亡くなっていくことであり、本当にひどい状況を私自身が見たことです。そして、誰にも言えないトラウマを抱えて子供時代を過ごしたことです。それは、瀕死の状態で水を求める人に水をあげたら、その人が私の目の前ですぐにガックリと息絶えた経験からです。驚いたと同時に私は人を殺してしまったと恐怖に震え、水をあげたことをとても後悔しました。このこと決して誰にも言うまいと思いました。当時、『重傷者に水をあげてはいけない』といわれていたそうですが、まだ幼い私は知らずにいました。この記憶は何十年たった今でも決して消えることはありません。

原爆が投下された時、眩しい光の中で、見ていたものすべてが瞬時に真っ白になり、強い爆風で道路にたたきつけられ意識を失いました。

気が付いたときは、もう夜になったかと思ったほど辺りは真っ暗でしたが、なぜか遠くで納屋の藁屋根が勢いよく燃えているのを見ました。自宅の固い柱やコンクリートにもびっしりとガラスの破片が突き刺さっていました。すぐ側の裏山にも火の手があがり、広島は一晩中燃え続け、翌朝は見渡す限りの焼け野原でした。それから毎日、私は神社の石段を登っては広島の街を見続けました。遺体を焼く煙が上がり、時折、ひどい匂いが流れて来ました。半壊した自宅は親族や知人など負傷者であふれていました。姉は、叔父の背中に刺さったガラスの破片をピンセットで泣きながら抜いていました。家の中は吐き気を催すような血や膿の臭いが充満していました。」

小倉さんは、核兵器の恐ろしさと命の尊さをご自身の体験を通して伝えようとされています。それは決して思い出したくない辛い経験であることは言うまでもありません。しかし、平和への歩みを決して止めてはならないとの思いから国内外の人々に向けて語り続けておられます。その際、人によって受け止め方や感じ方もさまざまなので、いつも相手の立場に立って話し方を変えるという努力を重ねられています。もっともっと人々の心に届く方法はないだろうかと。

常に相手の一歩に繋がるようにと願いを込め、大切に言葉を紡ぐ小倉さんの姿はこの日もそこかしこに感じられました。最後に語られたのは来年に開催されるＧ７サミットへの思いでした。

「リーダーたちが納得できるようなしかけをみんなで考えましょう。みんなが考えてこのリーダーたちの心の底深くに絶対に『核はいらない、絶対に使わない』と、思わせるのは、広島の心意気だと思います。みなさんの力だと思います。頑張ってください。お願いします。一緒にやりましょう。」と結ばれました。他の誰でもなく「わたしたち」に向けられた言葉でした。（学習部　西村宏子）

高校生平和大使あいさつ　　第 25 代　高校生平和大使　岡本依純

私は第 25 代高校生平和大使を務めております。広島県立広島高等学校 2 年の岡本依純です。

広島に原爆が投下されて 77 年目となる今、戦争の歴史は忘れ去られていないでしょうか。一人一人が平和や核兵器について意見を持てているでしょうか。

私は先日被爆された方からお話を伺いました。その中で被爆者の方が何度も強く述べられたこと、それは、「広島の犠牲者の話を踏まえて伝承していってほしい」ということでした。思い出したくない、という言葉とともにさまざまな苦しく痛い経験を話してくださりました。私はその一言一言に重みを感じました。そして絶対にこの被爆の伝承を途絶えさせるべきではないという責任も感じました。

77 年を迎える今、私たちは被爆者から直接話を聞ける最後の世代であると言われています。だからこそ今を生きる私たちは被爆者の声に耳を傾けその被爆体験を自分自身の平和に対する強い思いと一緒に自分の言葉で世界に向けて発信してくべきだと考えます。

また私の印象に残っている言葉は、「被爆者は皆運が良かったと話す」という言葉です。私はこの時に、同じように考えると自分自身も運よく原爆を免れて生まれてきたと表現されるのではないだろうかと思いました。私自身、今を生きていられることは過去があってこそだと感じています。もし、77 年前の 8 月 6 日のことを今日まで語り継がれていなかったら、今どこかの国が何の躊躇(ためら)いもなく核兵器を使っているかもしれません。だからこそ被爆国である日本が過去に学んだ核兵器の恐ろしさや平和の大切さを積極的に発信していくべきなのではないでしょうか。

皆殺しの兵器と呼ばれる核兵器ですが、今では日本でも核を持つべきという「核共有」の声も挙げられています。各国が核を持って創られる世界は間違いなく平和な世界ではなく核開発競争の世界です。核を持つということはいつ使われるかわからないということであり、不慮の事故にもつながります。だからこそ、核兵器の恐ろしさを訴えるとともに、核兵器をみんなが持っていないから平和だと胸を張って言える世界を創ります。

大人ではない高校生として今できることを考え、積極的に平和に対する思い、そして声を上げていきます。そして同世代の人々に意見を持ってもらい戦争を過去のことで終わらせるのではなく今、そして未来の自分ごととして捉え、考えてもらいたいです。

「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン（報告）

気候変動の影響でしょうか、11 月にしては暖かい昼下がり、コロナの感染者が増えつつある土曜日、多くの人で賑わう八丁堀交差点で「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーンを行ないました。

国は、毎年 11 月 12 日から 25 日までを「女性に対する暴力をなくす運動」と定め意識啓発を行なっています。広島

では11月12日（土曜日）、広島市、国際ソロプチミスト広島―中央、ひろしまWENETが連携して、コロナ禍、密にならないように気を付けながらチラシ等を、声をかけながら配布しました。

女性の約4人に1人は、配偶者から被害を受けたことがあると言われます。しかし、受け取って下さる方は最近少なくなりました。

永年続いているこの事業ですが、啓発効果があるように、少し検討が必要ではないかと感じました。（啓発部　山本）

広島市女性団体連絡会議 2022年度役員

会長	貴 田　月 美	Ｉ女性会議広島支部
副会長	西 村　宏 子	２０００＋１７・平和
副会長	山 本　紀 子	水曜茶論
書記	森　政 美	水曜茶論
書記	門田　よしこ	ウィメンズ･キャンサー･サポート
会計	宮 田　保 江	安芸コスモスゾンタクラブ
会計	土 居　絹 子	安芸コスモスゾンタクラブ
学習部会長	平 木　久 恵	２０００＋17・平和
啓発部会長	中 嶋　典 子	Human ＆ Network 宙（そら）
広報部会長	藤 永　雅 子	広島市未来を考える女性の会
監事	佐藤　奈保子	Ｉ女性会議広島支部
監事	大久保　和子	国際ソロプチミスト広島

広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ

ひろしまWENET2023年男女共同参画セミナー

日　時：2023年2月19日（日）10時～12時30分

場　所：広島平和記念資料館東館地下1階
　　メモリアルホール

テーマ：ジェンダーと核兵器禁止条約

＜第１部＞講演

テーマ：核兵器禁止条約とジェンダー

講　師：金崎由美さん
　　（中国新聞編集局ヒロシマ平和メディアセンター長）

＜第２部＞

Ⅰ．第１回締約国会議レポート
　報　告：瀬戸麻由さん
　　（シンガーソングライター・ハチドリ舎スタッフ）

Ⅱ．金崎由美さんと瀬戸麻由さんによるトーク
　テーマ：今後の核兵器禁止条約と私たちの役割

2023年国際女性デーひろしま

日時：2023年3月5日（日）午後～（調整中）

場所：調整中

テーマ：ひろしま･平和･ジェンダー（仮称）

◎講演:

講師:宮崎 園子さん（元朝日新聞記者）

◎若者たちによる活動報告（案）

①どうなる子ども図書館

②学校のトイレにナプキンが

③学生への食糧支援その後

＊主催：
　2023年国際女性デーひろしま実行委員会

＊詳細は検討中です

WENETニュース第54号　　2022年11月発行
発行者　広島市女性団体連絡会議（広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付）
責任者　貴田月美